

令和7年度 第1回 横浜能楽堂指定管理者選定評価委員会 会議録

- 1 日 時 令和7年7月29日（火） 10時30分から12時00分まで
- 2 場 所 横浜市役所 18階会議室
- 3 出席者 高橋 悠介 委員、張 櫻馨 委員、諸貫 洋次 委員、横山 直子 委員
- 4 傍聴者 なし
- 5 議事内容

議 題	<ol style="list-style-type: none"> 1 定足数の確認について 2 委員会の公開・非公開について 3 令和6年度業務評価について 4 その他
議事・委員意見等	<ol style="list-style-type: none"> 1 定足数の確認について 委員数4名のうち4名の出席により定数を充足しており、会議の成立を確認した。 2 本委員会の公開・非公開について 横浜市の保有する情報の公開に関する条例第31条及び横浜能楽堂指定管理者選定評価委員会運営要綱第9条に基づき、公開とした。 3 令和6年度業務評価 <ol style="list-style-type: none"> (1) 指定管理者による自己評価 指定管理者から、令和6年度の実績及び自己評価についての説明があった。 (2) 行政評価について 評価表に基づき、事務局から行政評価の要点について説明があった。 (3) 委員による評価 委員から指定管理者に対する評価内容の説明及び質問を行った。 <p><主な意見及び質疑応答> (以下「・」：委員、「→」：指定管理者)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OTABISHO 横浜能楽堂は、横浜能楽堂が再開館後も運営ができるのか。 (事務局) 運営体制や費用面で難しい状況であり、OTABISHO 横浜能楽堂を継続して運営することは難しい状況である。ただ、ランドマークで横浜能楽堂が活動していることは確認できるようになったと思うので、イベントやスポット的に展開できればと思っている。今後、指定管理者と確認していきたい。 ・友の会について、再開館後にどのようにするか決まっているか。 →現在、LINE 会員へ移行し、会費がない形で LINE 会員に登録いただいている。会費が必要な友の会は復活をせず、LINE 会員としてサービスを提供する。今後、LINE 会員向けのイベントを担当者が検討している。 ・会費はないが、特権はあるということによいか。 →今までも会費は払っていただいていた、割引はなく、チラシを郵送したりしていた。

デジタルに移行したが、現在も紙チラシがほしい方もいらっしゃるので、デジタルと並行してやっていく形になるかと思っている。

・OTABISHO 横浜能楽堂の来館者数について、想定したより多いかそれとも少ないなど実感はあるか。

→目標としては、2年間で5万人という目標なので、1年間で2万5,000人になるが、やや来館者数が少ない結果だった。ランドマーク自体の集客に影響されるところもあり、特に夏のイベント開催時はランドマーク自体の来場者もかなり多かった。今年はまだわからないが、横浜能楽堂でもイベントや講座を実施し、周知をしていくことを続けていく。

【評価する点】

・大規模改修工事期間であるものの、逆手にとって、OTABISHO 横浜能楽堂をはじめ市内各所で事業を行うことで、これまで全く能・狂言に触れてこなかった多くの初心者に機会を与えていることを高く評価する。

・未就学児やビジネスパーソンなど、対象者を絞った取組や動画配信事業として、インスタライブを実施するなど、試行的な取組を実践したと評価できる。

・大学生向け事業について、オンライン講座とすることで、参加しやすい環境を作っており、現地開催よりも参加者が多く集まったことが確認できる。

・横浜能楽堂のリニューアルオープン後、スムーズに活動が実施できるように休館中の利用団体へのサポートを継続して実施されており、市民活動のコンシェルジュ的な役割を果たしていると確認できる。

・OTABISHO 横浜能楽堂の総来場者数が、23,426名となり、昨年度より来場者が増加しており、休館であることを効率的に活用していると確認できる。

・OTABISHO 横浜能楽堂のオープニングパフォーマンスについて、郷土芸能3団体のお練りと大蔵流、和泉流立ち合いの「三番三/三番叟」はインパクトがあり多くの方へ印象を残したと確認できる。

・解説動画の視聴数も伸びており、能に親しむ機会を提供し、能楽や古典芸能の振興について、役割を果たしている点を評価できる。

・「柿山伏」の動画に英語字幕をつけており、英語圏・英語話者に対する発信をしたことについて評価できる。

・動画の公開や魅力的なメニューがラインナップされたワークショップを展開していると確認できる。特にミニチュア展示については、限られたスペースでの説明に適しており、SNSでの情報発信と効果的に活用されていると確認できる。

・ランドマーク内のOTABISHO 横浜能楽堂で、能楽および横浜能楽堂の魅力発信を行って、多くの来館者を得ていることについて評価できる。

・見学や取材対応し、PR動画の放映や説明を通して、能楽堂の魅力や歴史ある横浜能楽堂の舞台の意義を伝えている点を評価する。

【より一層の取組を期待する点】

- ・広報手段などについては、効果分析を実施し、その結果を今後の運営に生していくことを期待する。
- ・能楽等をはじめとする市民活動の場とするだけでなく、関心を有する市民が気軽に立ち寄れる居場所づくりを視野に入れていただきたい。
- ・琉球芸能公演を鶴見区で実施し、積み重ねた企画力を能楽堂外で発揮していることが確認できる。今後も能・狂言についても企画力高い事業を実施することとアーカイブの公開について期待する。
- ・継続した動画の発信や、他のメディアへの露出機会を生かした発信など、効果的なクロスメディアとしての活用を期待する。
- ・新たなファン層の開拓は今後も継続されると思うが、開拓された方を離さないといった事業の取組を期待する。
- ・ビジネスパーソンをターゲットにした公演をしていることで、企業など新たな協賛や連携先の獲得を期待する。
- ・地元での集客力や情報発信力には課題があるため、収支の安定に向けて継続的な広報と商品開発や人材戦略の強化を期待する。

5 その他

(1) 今年度実施する公演事業およびオリジナル商品について

指定管理者から、今年度実施する公演する事業とオリジナル商品について説明があった。

6 まとめ

本日の委員会で確認した内容を踏まえ、各委員は評価シートを改めて清書し、事務局で調整の上、委員会の最終評価内容としてまとめることとする。